

園芸

## 5 1 地産地消・付加価値販売型農業実現計画

事業実施主体：中尾 聡（最上町）

## ◆プロジェクトの概要

ハウス水耕栽培による葉物野菜（リーフレタス等）の農薬を使用しない周年栽培に取組み、地元温泉旅館やスーパー、直売所を核とした地産地消を推進する。

## ◆具体的事業

H24: パイプハウス・水耕栽培装置

## ◆創意工夫性

- 地元温泉旅館とタイアップした地産地消
- ハウス水耕栽培による農薬未使用の葉物野菜周年栽培

## ◆事業の成果

- ①産出額の増加（H23: 1,200千円→H25: 6,235千円）〔H28目標: 8,000千円〕
- ②葉チシャの販売枚数（H25: 575,000枚）〔H28目標: 650,000枚〕
- ③雇用の創出（H25: 360人日）〔H28目標: 150人日〕
- ④県内でも葉物野菜のハウス水耕栽培の取組み事例が少ないことから、視察等を受け入れた。

## ◆事業実施主体の声

消費者との結びつきを重視した販売をしていくため、支援事業を活用させていただき、無農薬で栽培できる生産体制を整備しました。  
消費旺盛な「葉チシャ」を中心とした葉菜類に的を絞って生産を進めているところですが、プラント移植後の栽培期間を左右するハウス内の温度調整や、露地物との競合をどう乗り切るかなど、試行錯誤の連続です。  
販売強化を図ってきたことが実を結び、だんだんと取引先も増え需要も多くなってきました。これからは、生産量の増産を視野に事業展開していく予定です。今後も消費者の方々に信頼される農産物を生産していきます。



林業

## 5 2 雪の融解潜熱を利用した除湿式木材乾燥施設整備プロジェクト

事業実施主体：株式会社カネシチ（舟形町）

## ◆プロジェクトの概要

自然乾燥に近い風合いの乾燥木材の生産に向け、民間企業や大学との共同研究により構築した、雪の融解潜熱の活用による環境負荷の少ない木材乾燥システムを実用化し、乾燥時間の短縮による木材供給の拡大を図る。

## ◆具体的事業

H24: 除湿式木材乾燥施設の建設

## ◆創意工夫性

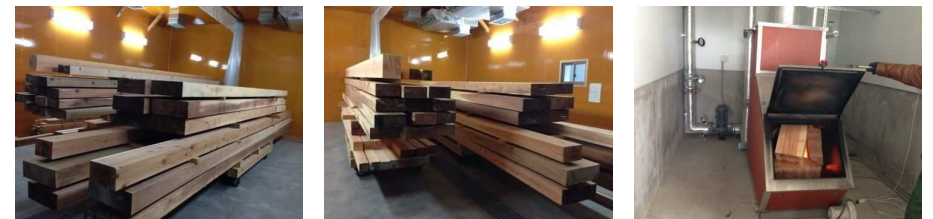
- 自然エネルギーを利用した木材乾燥システムの構築

## ◆事業の成果

- ①産出額の増加（H23: 40,000千円→H25: 43,200千円）〔H28目標: 57,500千円〕
- ②雇用の創出（H25: 60人日）〔H28目標: 834人日〕
- ③自然エネルギーを利用した全国的にも先進的な木材の乾燥施設ということで、さまざまな分野からの視察に応じている。

## ◆事業実施主体の声

春夏秋において太陽熱利用での木材乾燥を行い、木材乾燥を低コストで行うことを実証し、各種データも採取することができました。  
また、冬季間は廃材ボイラーを熱源とし、乾燥室内の空気を循環させ、温度差による冬季降雪利用モードでの木材乾燥を行い、計画どおりに進捗している状況です。  
今後は、山形大学から実証結果報告が行われ、それを基に温度や風量、木材量などの適正な使用環境の設定を行っていくことにしています。  
この事業は「平成25年度エコカップ山形賞」を受賞し、また「平成26年度雪の市民会議いいで」において、事例発表を行っており、自然エネルギーを利用した環境負荷の少ない取組みとして注目されております。



特用林産物

## 53 きのご栽培工場における省エネルギー化事業

事業実施主体：株式会社緑の起（鮭川村）

### ◆プロジェクトの概要

廃菌床を燃料にしたバイオマスボイラーとその熱を利用した発電機を導入（他事業活用）するとともに、電力監視・制御装置による使用電力の見える化や、省電力型冷凍庫の導入により、菌床きのご栽培の省エネルギー化を進める。

また、更なるコスト削減を図るため、おがくず乾燥機導入によるリサイクル培地の生産に取り組む。

### ◆具体的事業

H24: インバータ式冷凍機、  
電力監視・制御装置  
H25: インバータ式冷凍機

### ◆創意工夫性

- 電力の“見える”化により細かく時系列的に消費電力を把握することで、コスト削減につなげる。
- 再生可能エネルギー活用の工夫
  - ・廃菌床をバイオマスボイラーの燃料として活用し、さらにその熱を利用して発電。
  - ・おがくずを乾燥機燃料として活用。

### ◆事業の成果

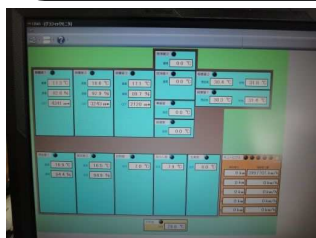
- ①産出額の増加（H23: 233,233千円→H25: 280,898千円）〔H28目標: 305,302千円〕
- ②消費電力削減率（H25: H23年度比10.5%削減）〔H28目標: H23年度比15%削減〕
- ③雇用の創出（H25: 4,722人日）〔H28目標: 5,042人日〕
- ④培地のリサイクル化（全体の1/4についてリサイクル培地利用）

### ◆事業実施主体の声

電力の“見える”化により、電力消費の分布が時系列で把握できるようになりました。この結果、作業時間をずらしたり、冷凍機の交互運転を行うことで消費電力のピークを低く抑えることができるようになりましたが、生産量の増加により総電力使用量は増加しました。ただし生産単位では10.5%の電力の削減につながっています。

また、使用済み培地を乾燥し廃菌床としてリサイクルすることでコスト削減するだけでなく、今後課題となる廃菌床の処理について、燃料化や飼料化の試験も併せて行っていく体制ができてきました。

今後も省エネルギー化や、培地リサイクルを含めた事業全体を通してCO<sup>2</sup>削減を行い、カーボンフットプリント（CO<sup>2</sup>などの温室効果ガスの出所を調べて把握すること）できる体制を整備し、CO<sup>2</sup>排出の少ない商品として、営業にも役立てたいと考えております。



畜産

## 54 やまがた最上鶏ブランド化プロジェクト

事業実施主体：株式会社アイオイ（鮭川村）

### ◆プロジェクトの概要

鶏糞温水ボイラーの導入により燃料費を削減し、飼料用米給餌を中心とした安全安心鶏の生産規模を拡大する。また、鶏糞温水ボイラーの燃焼灰は国産として貴重なリン酸カリ肥料として飼料用米生産者へ還元し、鶏生産における循環型農業を実践する。

### ◆具体的事業

H24: 鶏糞温水ボイラー  
冷凍冷蔵設備  
H26: 鶏舎整備

### ◆創意工夫性

- 飼料米給与を中心とした安心安全鶏のブランド化。
- 鶏糞温水ボイラー導入による燃料費の削減、また、燃焼灰を国産として貴重なリン酸カリ肥料として、飼料用米生産者へ還元し、循環型農業を実践する。

### ◆事業の成果

- ①産出額の増加（H23: 160,000千円→H25: 162,000千円）〔H28目標: 233,000千円〕
- ②雇用の創出（H25: 300人日）〔H28目標: 300人日〕
- ③鶏糞温水ボイラーの導入によって大幅なコスト削減につながった。
- ④飼料用米生産者との連携により循環型農業を実践できている。

### ◆事業実施主体の声

鶏糞温水ボイラーの導入による燃料費の削減効果として、従来と比較し90%以上削減することができ、燃料費の抑制に大きな効果があった。燃焼灰も水田農家の方に使っていただいたところ、生育が良好であったとお声もいただいた。今後もブロイラー生産における循環型農業をさらに進めたい。

また、現在、新鶏舎の建設中であり、年間41,700羽の増羽により産出額のさらなる拡大を図りたい。



林業

## 55 置賜の木利用拡大プロジェクト

事業実施主体：株式会社アイタ工業（米沢市）

## ◆プロジェクトの概要

自社有林を中心に地元産材の利用拡大を進め、原木生産から木材加工まで一貫した木材生産体制の構築と付加価値の高い木材製品づくりを目指す。

## ◆具体的事業

H24: プレカット加工機械、受電設備工事

## ◆創意工夫性

- 地元産丸太の有効活用を図る
- 住宅産業と連携し、高品質プレカット材を安定供給により工期を短縮し住宅コストの低減を図る

## ◆事業の成果

- ①産出額の増加(H23: 4,699千円 → H25: 92,252千円) [H28目標: 99,600千円]
- ②自社生産製材品の利用量(H23: 61㎡ → H25: 1,014㎡) [H28目標: 1,300㎡]
- ③地域内雇用(H25: 1,123人日) [H28目標: 1,662人日]

## ◆事業実施主体の声

平成25年度においては、消費税増税前の駆け込み需要により、目標産出額に近づく結果となっている。本事業によりプレカット加工機械を導入したことで、地元木材の利用に大きく貢献することが出来たと考えております。

今後も機械の性能(加工速度・能力)を活かし、木造の大型物件にも対応することが可能であることから、地産木材を積極的に利用していきたい。



土地利用型

## 56 地域農業の土台づくりと消費者と結びつけた米販売戦略プロジェクト

事業実施主体：農事組合法人サンファームしらたか（白鷹町）

## ◆プロジェクトの概要

離農農家等からの農地集積による規模拡大を進めるとともに、土づくりなど実践研修できる施設を設置して担い手育成を図り、地域農業の土台づくりに取り組む。また、消費者の個々のニーズを把握し顧客管理することで、米販売を基軸とした農産物の販売拡大を図る。

## ◆具体的事業

H24: パイプハウス、灌水設備、販売管理ソフト、トラクター、代掻きハローの整備

## ◆創意工夫性

- 担い手を育成するため、土づくりなどの実践研修できる施設を設置。春先は育苗ハウスとして有効活用する。
- 顧客情報を一元化することにより事務の効率化を図り、米作りの労働力を確保する。

## ◆事業の成果

- ①産出額の増加(H23: 57,000千円 → H25: 73,547千円) [H28目標: 73,000千円]  
※H28目標を達成し、さらなる産出額拡大に取り組んでいるところ。
- ②水稲作付面積(H23: 48.75ha → H25: 52.3ha) [H28目標: 62ha]  
うち特別栽培米面積(H23: 23.32ha → H25: 23.2ha) [H28目標: 30ha]
- ③地域内雇用(H25: 1,517人日) [H28目標: 1,645人日]

## ◆事業実施主体の声

25年産米の販売不振とともに、26年産米概算金の大幅な下落、消費税増税の状況の中で、米の売り上げが大幅減となってしまいましたが、春先の多様な圃場条件にも対応ができ適期作業を行うことにより安定収量が確保できました。厳しい販売環境下ではありますが、産出額拡大を目指して努力していきます。地域農業の担い手育成の場として、水稲育苗後はメロン栽培を行い、その後、野菜づくりの栽培研修等に取り組んでいきます。



水産

## 57 地魚トップブランド化促進プロジェクト

事業実施主体：本間 仁（鶴岡市）

### ◆プロジェクトの概要

「通年操業のマダイ」、「夏のマグロ」、「秋のサワラ」を活け締めし、高鮮度魚として通年出荷するため、血抜き用生けすと保冷保管用魚槽を整備した中古漁船を購入し、1人乗り小型漁船漁業による新規独立経営漁業者のモデルケースになることを目指す。

### ◆具体的事業

H24: 中古小型漁船の購入

### ◆創意工夫性

- 高鮮度保持技術の他魚種への応用
- 首都圏居酒屋への直接出荷の実施
- 小型漁船漁業技術研修の受入先として独立就漁者の育成に貢献

### ◆事業の成果

- ①産出額の増加（H23:270千円 → H25:3,039千円）〔H28目標:7,000千円〕
- ②首都圏居酒屋への直接出荷（H23:0kg → H25:5kg×6回）

### ◆事業実施主体の声

以前、私は底曳船の乗組員として働いていましたが、平成24年度に本プロジェクトの支援を受け、血抜き用生けすと保冷保管用魚槽を整備した中古小型漁船を購入し、一人乗り小型漁船漁業（延縄漁業）を始めました。

延縄漁業を始めてからは、主に通年操業で鯛、夏はマグロ、秋はサワラを獲っています。魚は鮮度が大切なため保冷保管用魚槽を活用した他、マグロは活け締め、サワラは神経抜きなどの技術を習得し、新鮮な魚を消費者に届けることを心掛けています。

近年、魚価の低迷や漁業環境の変化など漁業者を取り巻く環境は厳しいものがありますが、このプロジェクトは新規独立を目指す漁業者にとって有効な制度と実感しております。今後も新鮮な魚を提供できるよう取り組んでいきたいと思っております。



農産加工

## 58 耕作放棄地の活用によるオーガニック栽培愛玩動物用飼料製造プロジェクト

事業実施主体：山澤 清（庄内町）

### ◆プロジェクトの概要

地元で生産された野菜や、耕作放棄地等を活用した有機栽培の麦・雑穀・ハーブ等を使用し、安全性・健康性の高い愛玩動物用飼料を生産する。

### ◆具体的事業

H24: 汎用コンバイン、空気循環型乾燥機、トミ、粗選機、小型スライサー

### ◆創意工夫性

- 業界初の「オーガニック栽培の麦・雑穀・ハーブと野菜」の愛玩用酵素素食を製造・販売
- 多収穫でなくても加工により採算性の高い農業の実現

### ◆事業の成果

- ①産出額の増加（H23:1,500千円 → H25:2,403千円）〔H28目標:10,000千円〕
- ②耕作放棄地等の有効活用（H23:0ha → H25:1.5ha）
- ③地域の規格外野菜の活用（H25:2,800kg）
- ④地域内雇用の確保（新規採用1人）

### ◆事業実施主体の声

農家の若手生産者や新規就農者とともに、耕作放棄地を活用したオーガニック野菜や雑穀を栽培し、現在200種以上のオーガニック伝承野菜を出荷しています。

また、収穫時に出る規格外の生産物を裁断、乾燥、粉碎して「愛玩動物の飼料」として製品化しました。

平成26年度は大阪の展示会に出展するなど、販路拡大に向け活動しています。



農産加工

## 59 特別栽培餅米加工販売拡大プロジェクト

事業実施主体：余目町農業協同組合（庄内町）

## ◆プロジェクトの概要

特別栽培もち米を用いたもち加工品の個包装販売のため設備を導入し、既存の大袋販売に加え、都市部取引先並びに地域消費者の要望に対応できるよう少量・小袋の製造出荷体制を確立する。

## ◆具体的事業

H24: 高速横型ピロー包装機

## ◆創意工夫性

- 個包装パッケージの導入による大袋開封後のカビ発生の防止
- 小家族、個人消費者が購入しやすい少量・小袋商品の販売

## ◆事業の成果

- ①産出額の増加(H23:0千円 → H25:8,825千円)[H28目標:33,000千円]
- ②地域内雇用の確保(H25:短期雇用3人)

## ◆事業実施主体の声

近年、少子高齢化や核家族化に伴って、関東方面のみならず、地元庄内でも個包装餅の需要が増えてきております。本プロジェクトへ支援をいただいたことで、それらの要望にお応えし、特別栽培餅米「でわのもち」への付加価値を拡大する取組みに大きく役立たせております。

導入した機械で製造した個包装餅は、1kg詰めと500g詰めが主力ですが、餅1個ずつに脱酸素剤を封入し、大袋に包装して販売します。それが、個包装餅を購入いただいた方々から、食べたい時に食べたい分だけ調理できることで、大変喜ばれております。

これからお客様に喜ばれる商品作りを、特別栽培餅米生産者とともに、より一層の努力を重ね、生産して参りたいと考えております。



農産加工

## 60 農家体験レストランで6次産業化プロジェクト

事業実施主体：高梨 美代子（庄内町）

## ◆プロジェクトの概要

農家レストランを整備し、自家生産した安全・安心・新鮮な野菜を使った郷土料理を提供することにより、地域の食文化の伝承を図る。またレストラン内に直売所を開設し、自家生産の野菜や地域の野菜を販売する。

## ◆具体的事業

H24: 厨房施設等の整備

## ◆創意工夫性

- 自家畑の野菜もぎ採り等の農業体験
- 郷土料理の提供により地域の食文化の発信
- 旅行企画会社との提携

## ◆事業の成果

- ①産出額の増加(H24:300千円 → H25:3,855千円)[H28目標:4,832千円]
- ②県外ツアー客の来訪(H25:12人)

## ◆事業実施主体の声

郷土料理の提供と、遠方のお客様に庄内の食のおいしさを伝えようと始めた店でしたが、事業を始めると地元住民の来店が多く、山菜の塩蔵や米粉の料理などを教えて欲しいとの要望が多いです。そのような要望に応えることで、地域の食文化の発信ができているものと感じております。

